

☆練馬区長賞

『いつか恩返しできるように』

練馬区立豊玉中学校 三学年 小林 洸太

私は、税金の使いみちである社会保障のひとつ「医療費の助成」に助けられている人間のひとりです。風邪を引いて病院に行く、虫歯の治療で歯医者に行くというのは、よくあることですが、それとは別に私はいくつかの疾患を抱えています。

一つは、「食物アレルギー」です。定期的な受診に加え、重いアレルギー症状であるアナフィラキシーが出てしまった時に備えて、「エピペン」という注射が処方されています。

もう一つは、「成長ホルモン分泌不全性低身長」です。小学生の頃に身長の伸びがあまり良くないと指摘され、検査したところ成長ホルモンがあまり出ていないことがわかりました。成長ホルモンの注射が処方され、治療を開始することができました。

エピペンも成長ホルモンの注射も、薬の価格が高額で、特に成長ホルモンの注射は、医療費の助成がなかったら、治療は厳しか

ったかもしれません。医療費の助成のおかげで治療を始めることができ、少しずつですが身長も伸びてきました。またエピペンが手元にあることで、何かあった時に対処できるという安心感を持つことができています。それもこれも、医療費の助成のおかげ、そして税金のおかげです。

テレビでニュースを見ると、街頭インタビューなどで「税金が高すぎる」、「税金の無駄使い」などの声を聞き、マイナスなイメージとっていました。ですが、自分が税金の恩恵を受けることになり、その意識ががらりと変わりました。

税金は、人々の生活を支えるために必要不可欠であり、なくてはならない物です。あらゆる公共サービスが税金でまかなわれています。舗装された道路、整備された信号、学校に行って授業を受けられること、ゴミの収集はもちろん、警察や消防、救急車も税金がなくては成り立ちません。最近では学

校給食も無償化になり、とても助かると母が言っていました。税金は払いつばなしではなく、誰もがどこかで恩恵を受けているはずなので、人々が生活を支え合うためにも、納税は必要なことだと思いました。

これからますます少子高齢化が進み、税制度もどうなるかわかりませんが、私は今医療費で支えてもらっている分、大人になったらきちんと働いて、税金を納められる人になりたいと思います。一人の力は小さいかもしれないけれど、みんなが力を合わせて、誰もが安心して生活できるような社会になることを望んでいます。